サクラバハンノキ　*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的にはやや希少な樹木であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状況ではない。

【形　態】

落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。枝は灰褐色で、皮目は小さく円形である。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。雌雄同株で、花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（芹沢 55871）、豊川宝飯（芹沢 51556）、豊橋南部（芹沢 58595）、田原赤羽根（芹沢 56315）、渥美（芹沢 58619）、下山（小林 53330）、小原（芹沢 56577）、藤岡（芹沢 55899）、豊田東部（芹沢 75860）、豊田北西部（芹沢 51448）、三好（芹沢 52533）、額田（芹沢 57982）、岡崎南部（芹沢 69871）、幸田（芹沢 72502）、幡豆（芹沢 58178）、瀬戸尾張旭（芹沢 74425）、日進長久手（半田多美子 2728）、春日井（秋山葉子 87）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2459）。しかし、作手を除けば三河山地にはなく、平野部にも見られない。知多半島でも現在のところ確認されていない。

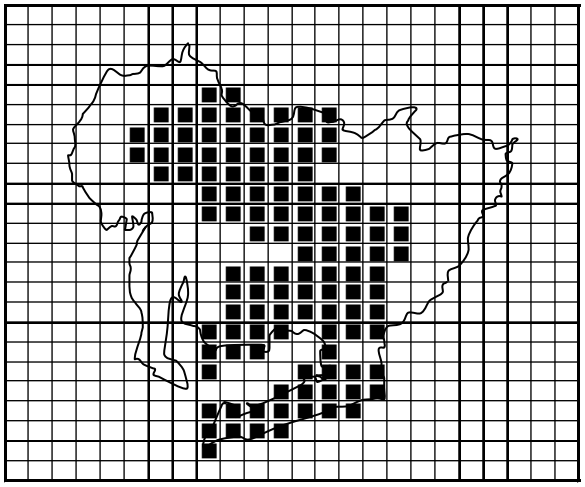
【国内の分布】

本州（茨城県、新潟県以西）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本および中国大陸南東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものはあまり大きくならないことが多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地		○		
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地ではあちこちに生育している。しかし、森林化の進行につれてやせ山の状態が失われ、後継樹が生長できる機会は減少しており、その点で将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

全国的に見れば希少な樹木で、準危惧という評価は愛知県やその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため愛知県においても、それなりに保全上の配慮を要する。個体レベルでの保全に限ればそれほど神経質になる必要はなく、むしろ森林の伐採や崩壊地の放置などにより、本種が個体群として存続できるような条件を整える必要がある。全国的な状況を知らない人からは、「こんなものまで保全していたらきりがない」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、愛知県の丘陵地の自然はかくも貴重だと言うことである。

【特記事項】

ハンノキに比べ、葉の基部が丸味を帯び、側脈が多く、また低湿地には生育しない。

【関連文献】

保木本Ⅱp.287、平木本Ⅰp.55、SOS 旧版 p.45、SOS 新版 p.110,112。

コギシギシ　*Rumex nipponicus* Franch. et Sav.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。低湿地性の植物で、近年確認される事例が増加している。

【形　態】

多年生草本。高さは通常 30～50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形～披針形、長さ 5～10cm、幅 1.5～3.5cm、先端は鈍頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は 4～5 月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。

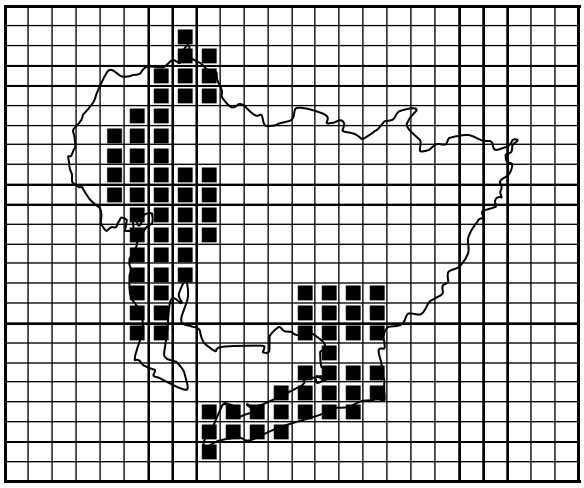
【分布の概要】

【県内の分布】
豊川宝飯（芹沢 78606）、御津（小林 78321）、豊橋南部（芹沢 75537）、田原赤羽根（小林 74871）、渥美（小林 75068）、大府東浦（芹沢 69286）、東海知多（岡島錦也 80）、常滑（近藤洋一朗 5492）、犬山（芹沢 79198）、岩倉西春（芹沢 78582）、名古屋南東部（渡辺幸子 4658）、名古屋南西部（芹沢 79165）、海部東部（芹沢 80540）。東三河南部と尾張中部には比較的多いが、西三河ではまだ確認されていない。

【国内の分布】
本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】
日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

路傍の荒れ地などに散発的に出現することもあるが、本来の生育地は低湿地と思われる。河川敷や小水路の周辺、休耕田などに生育することが多く、耕起前の水田雑草として出現することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

20 年くらい前まではかなり稀少な植物であったはずだが、全国的にも愛知県でも、近年あちこちで確認されるようになった。愛知県でも、何カ所かに比較的まとまった集団がある。しかし生育地はいずれも人為的な影響を受けやすい場所であり、河川改修、耕地整理などで失われる可能性もある。在来系統と帰化系統が混在している可能性があり、北アフリカや西アジアに分布する R. *dentatus* L.との関係を含めて、詳細な検討が必要である。

【保全上の留意点】

十分に理解されていない植物なので、まとまった集団については個別的な保全を図る方がよい。散発的に出現するものについては保全は難しく、良好な標本資料の確保につとめる方がよい。

【特記事項】

エゾノギシギシに似ているが、茎はやや紅色を帯び、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。「日本の野生植物」Ⅱ14 図版に本種として掲載されている写真は、エゾノギシギシである。

【関連文献】

保草Ⅱp.296、平草Ⅱp.16、SOS 旧版 p.48、環境庁 p.437、SOS 新版 p.139,140。

＜種子植物　被子植物　双子葉　離弁花類　クスノキ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜CHORIPETALAE　LAURACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

ニッケイ　*Cinnamomun okinawense* Hatus.

【除外理由】

環境省レッドリストに掲載されているので調査対象種に含めたが、愛知県のものは全て逸出で、保全の対象にならない。

【形　態】

常緑性の高木。高さ 15m、直径 60～100cm に達する。葉は対生または 2 枚がややずれてつき、長さ 8～15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 8～15cm、幅 2.5～5cm、先端は長くとがり、基部も狭いくさび形、全縁、葉質は革質で、裏面は粉白色、基部よりやや上で分岐した 3 脈が目立つ。花期は 5～6 月、花序は葉腋から出て葉より短く、散形でよく分枝する。花は淡黄緑色、花被は 6 裂し、裂片は細長く、長さ約 5mm である。果実は楕円形で長さ約 10mm、黒紫色に熟す。

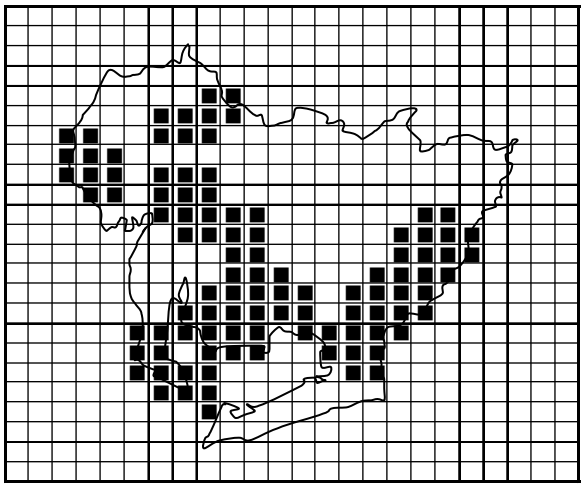
【分布の概要】

【県内の分布】
鳳来北東部（小林 36169）、新城（芹沢 60583）、御津（井上美保子 978）、豊橋北部（芹沢 73442）、豊田南西部（畑佐武司 6320）、岡崎南部（芹沢 78423）、西尾（堀田喜久 4138）、幡豆（壁谷重美子 524）、知多南部（芹沢 62685）、春日井（山田果与乃 582）、名古屋南東部（渡辺幸子 2593）、海部西部（芹沢 74712）など。標本は採取されていないが、他にもかなりの区画で確認されている。

【国内の分布】
琉球（沖縄島北部、久米島、徳之島）に生育する。栽培起源のものが本州の暖地、四国、九州に逸出している。

【世界の分布】
日本および中国大陸に分布する。

関連地区図



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では、山地の照葉樹林内に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林		○	○	
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、人里近くの林内に幼木が点在しているが、個体数は少ない。大きい木も見られない。

【保全上の留意点】

本種については、本来の自生ではなく、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

根の皮から肉桂をとるため栽培される。

【関連文献】

保木本Ⅱp.201、平木本Ⅰp.115。

＜種子植物　被子植物　双子葉　離弁花類　アブラナ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜CHORIPETALAE　CRUCIFERAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

コイヌガラシ　*Rorippa cantoniensis* (Lour.)Ohwi

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

1 年生または越年生の草本。茎は下部からよく分枝し、高さ 10～40cm になる。葉は互生し、下部のものは有柄、上部のものは無柄、葉身は長さ 2～10cm、基部に耳部があり、羽状深裂、裂片は長楕円形で辺縁に鋸歯がある。花期は 4～5 月、葉腋から短い花柄を出し、黄色の花をつける。がく片は直立し、長楕円形で長さ約 1.5mm、花弁は倒卵形で長さ 2～2.5mm である。果実はさく果で直立し、円柱形、長さ約 7～9mm、幅 1.5～2mm である。

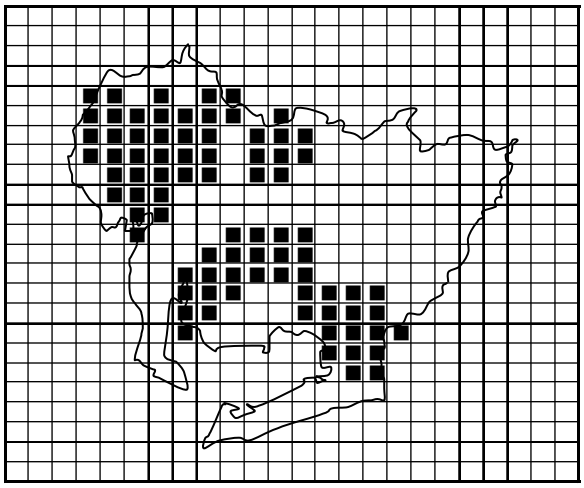
【分布の概要】

【県内の分布】
豊川宝飯（加藤等次 2265）、豊橋北部（瀧崎吉伸 9319）、藤岡（村松正雄 20619）、岡崎北部（中西普佐子 114）、安城（小林 65745）、高浜碧南（芹沢 64826）、春日井（芹沢 71325）、岩倉西春（芹沢 78583）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2272）、名古屋南西部（芹沢 79163）、尾西（渡辺幸子 811）、稲沢平和（水野峰子 405）、海部東部（芹沢 74447）。生育地はほとんど平野部に限られている。

【国内の分布】
本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】
日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や低湿地に生育する。場所によっては、春の水田雑草となっている。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地			○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

イヌガラシやスカシタゴボウに比べればはるかに少ないが、それでも注意して探せば、あちこちに生育している。ただし、本種が生育しているような水田は、耕地整理などにより、次第に減少傾向にある。河川敷などの低湿地では、攪乱跡地に多くはないが点在しており、将来とも残存するものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県においても、将来的には絶滅危惧植物に移行する可能性がある。本種が生育できるような環境は、注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

花柄が短く、見かけはイヌガラシやスカシタゴボウとはずいぶん異なっている。

【関連文献】

保草本Ⅱp.183、平草本Ⅱp.136、SOS 新版 p.139,141。

ミズマツバ　*Rotala pusilla* Tulasne

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も多く、絶滅が危惧される状態ではない。全国的に見ても、それほど希少とは思えない。

【形　態】

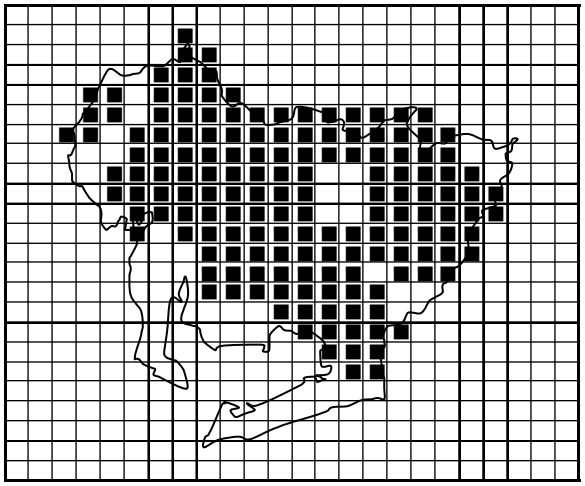
小型の 1 年生草本。茎の基部は地面をはい、分枝して立ち上がり、高さ 3～10cm になる。葉は 3～4 個輪生し、無柄、線形～狭披針形、長さ 6～10mm、幅約 1～2mm、先端は鋭～鈍頭で微凹端となる。花期は 8～10 月、花は葉腋に単生し、柄がなく、淡紅色。がく筒ははじめ鐘形、のちに球形となり、3 角形で長さ約 0.8mm の 5 裂片があり、花弁はない。蒴果は球形、長さはがくの 2 倍ほどある。種子は細かく、黒褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 74857）、東栄（小林 39372）、稲武（芹沢 63223）、設楽西部（小林 39661）、設楽東部（小林 39500）、鳳来北東部（加藤等次 3910）、鳳来北西部（小林 47614）、豊川宝飯（加藤等次 2266）、御津（小林 39646）、豊橋北部（芹沢 44782）、旭（塚本威彦 765）、小原（塚本威彦 1761）、豊田東部（山崎玲子 1638）、豊田北西部（畑佐武司 2326）、豊田南西部（畑佐武司 2526）額田（芹沢 57164）、岡崎北部（中西普佐子 1674）、岡崎南部（芹沢 70964）、安城（堀田喜久 926）、瀬戸尾張旭（日比野修 1771）、日進長久手（半田多美子 1302）、犬山（芹沢・松田 183）、春日井（芹沢 75086）、名古屋北部（村松正雄 18761）、名古屋南東部（渡辺幸子 4056）、名古屋南西部（高木順夫 5013）、尾西（渡辺幸子 4520）。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、平野部の広い水田には稀である。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、インド、中央アジア、アフリカなどに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田に生育する。ため池の岸などの低湿地に生育することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩				
湿 地	○	○		
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小型で目立たない植物であるが、よく探せば決して少ない植物ではない。愛知県の水田雑草は、近年強力な除草剤が使用されなくなって、全体的にやや増加傾向にあるが、本種の場合は以前から多かった。ただし都市近郊では、水田の宅地化などにより、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

本種の保全に関しては、現状では自然環境一般の保全という枠の中で考えるだけでよい。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、小型の植物でよく観察されておらず、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような見落としやすい植物が全国版レッドリストに掲載されていると、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。

【関連文献】

保草本Ⅱp.47、平草本Ⅱp.261、環境庁 p.492。

ウスゲチョウジタデ　*Ludwigia greatrexii* H.Hara

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も多く、水田雑草としてしばしば出現し、当面絶滅が危惧される状態ではない。全国的な状況ははっきりしないが、チョウジタデと混同されていることが多いと思われる。

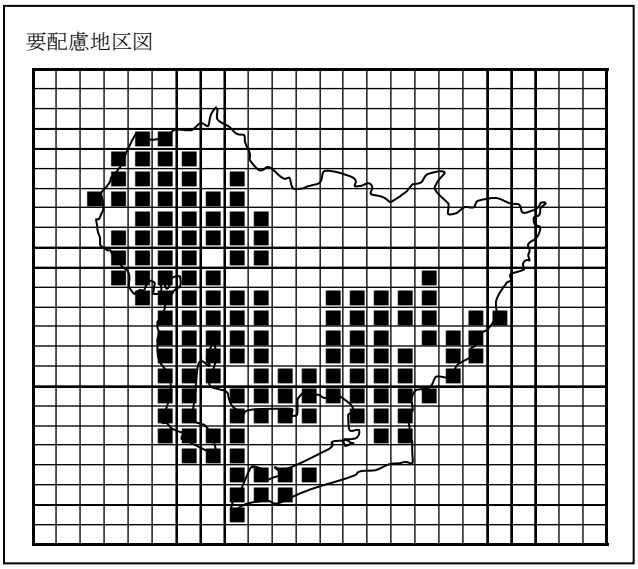
【形　態】

1 年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ 30～70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 7～8cm、幅 1～2cm、先端は鋭～鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は 8～10 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、無柄、がく片はふつう 5 個で、長さ 3～4mm、花弁は 5 枚で倒卵形、長さ約 4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約 2cm、先端にがく片が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（芹沢 83493）、鳳来北西部（小林 53555）、豊川宝飯（加藤等次 1897）、蒲郡（鈴木美恵子 259）、豊橋北部（芹沢 76540）、渥美（小林 47056）、額田（小林 65061）、安城（堀田喜久 6406）、幡豆（芹沢 82248）、日進長久手（伊藤恭子 618）、大府東浦（渡邉麻子 749）、東海知多（加藤雅憲 696）、半田武豊（芹沢 77062）、常滑（芹沢 77024）、知多南部（芹沢 77741）、岩倉西春（芹沢 78839）、名古屋北部（芹沢 80104）、名古屋南西部（芹沢 78131）、一宮木曽川（芹沢 70909）、尾西（芹沢 77722）、祖父江（渡辺幸子 5181）、海部東部（芹沢 73241）、海部南部（芹沢 70841）。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、三河山間部には分布していないらしい。



【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

夏～秋の水田雑草として生育している。低湿地に生育することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地		○	○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

チョウジタデに比べればずっと少ないが、それでも特に希少というわけではない。耕地整理が進んだ水田でも見られ、近年著しく減少しているということもない。

【保全上の留意点】

本種の保全に関しては、現状では自然環境一般の保全という枠の中で考えるだけでよい。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、チョウジタデと混同されており、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような見落としやすい植物が全国版レッドリストに掲載されていると、ミズマツバと同様、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。チョウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、葉が細く、花弁もがく片も大きいことで区別できる。

【関連文献】

保草本Ⅱp.44、平草本Ⅱp.267。

スズサイコ　*Cynanchum paniculatum* (Bunge)Kitagawa

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的には減少傾向の著しい草地性植物であるが、愛知県では生育地も個体数も多い。キキョウに似た状況であるが、本種の場合は園芸目的の採取圧が少なく、そのためリスト外と判定された。

【形　態】

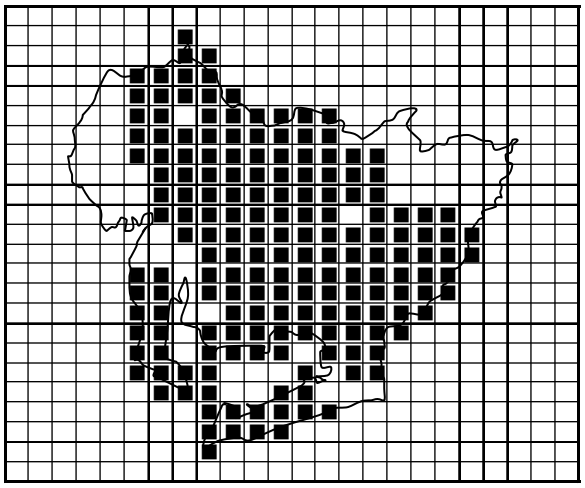
多年生草本。多数のやや太いひげ根がある。茎は細く、直立して上部はやや傾き、高さ 40～100cm になる。葉は対生して斜上し、ほとんど無柄、葉身は狭披針形～線状長楕円形、長さ 8～16cm、幅 0.7～2cm、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 7～8 月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色で 5 裂し、裂片は開出して長さ 5～8mm、副花冠は直立し、卵形、鈍頭で、ずい柱より短い。果実は袋果で細長い披針形、長さ 5～8cm、種子は卵形で狭い翼があり、長さ 4～5mm、先端に長い白毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（小林 66383）、鳳来南部（芹沢 59261）、作手（小林 58081）、新城（芹沢 71747）、豊川宝飯（芹沢 61750）、蒲郡（井上美保子 474）、豊橋北部（芹沢 71746）、田原赤羽根（芹沢 55036）、渥美（小林 44477）、足助（芹沢 76870）、小原（塚本威彦 1569）、藤岡（日比野修 675）、豊田東部（芹沢 76825）、豊田北西部（畑佐武司 6040）、豊田南西部（落合鈴枝 555）、三好（芹沢 81741）、額田（芹沢 59107）、岡崎北部（中西普佐子 1233）、岡崎南部（河江喜久代 88）、幡豆（芹沢 71105）、瀬戸尾張旭（大谷敏和 74）、日進長久手（半田・村瀬 876）、豊明東郷（浅野守彦 502）、常滑（芹沢 76811）、知多南部（芹沢 77745）、犬山（村瀬正成 A210）、江南丹羽（竹原芳子 1198）、岩倉西春（鈴木幸子 185）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 1980）、名古屋南東部（渡辺幸子 3202）。安城にもあるという（安城市史編集委員会，2005）。丘陵部には点在するが、北設楽郡と濃尾平野中央部では確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部～低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野部では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○		
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在の所はまだ比較的多く見られるが、本種が生育できるような草地は、愛知県でも次第に減少している。名古屋南東部では、最近見かけなくなってしまった。

【保全上の留意点】

本種の場合は、全国的に見れば、愛知県の状況が例外的と思われる。愛知県では当面絶滅が危惧されなくても、可能な限り生育地を保全すべき植物である。良好な里草地にはたいてい生育しているから、本種を指標として、保護を要する里草地を抽出することもできる。

【特記事項】

和名は、つぼみが鈴に似て、全形が薬用のミシマサイコに似ているからである。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.75. 安城市, 安城.

【関連文献】

保草本Ⅰp.206、平草本Ⅲp.40、環境庁 p.515、SOS 新版 p.82,84。

＜種子植物　被子植物　双子葉　合弁花類　シソ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜SYMPETALAE　LABIATAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

タチキランソウ　*Ajuga makinoi* Nakai

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 3。東海地方西部に分布の中心を持つ本地域の準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多い。

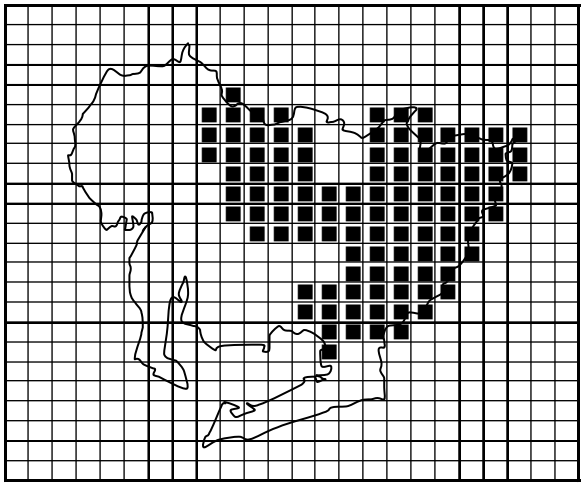
【形　態】

山地にはえる多年草。茎は株から数本束生し、通常斜上するが倒伏して開出することもあり、長さ 5～20cm、全体に長い白毛が散生する。葉は対生し、下部の 1～2 対の葉は鱗片状またはさじ状となる。上部の数対の葉は長楕円形、花時には長さ 3～5cm、幅 1～1.5cm であるが夏葉はより大きくなり、先端は鋭～鈍頭、基部は細まって柄となり、辺縁には少数の先の円いあらい重歯牙がある。花期は 4～6 月、花は上部の葉腋に数個づつつき、花冠は青紫色で長さ約 15mm、上唇は直立し、長さ 2～3mm あって 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】
富山（芹沢 51339）、豊根（芹沢 51313）、津具（芹沢 54699）、東栄（芹沢 48104）、稲武（小林 43075）、設楽西部（芹沢 81424）、設楽東部（芹沢 54705）、鳳来北東部（芹沢 82867）、鳳来南部（芹沢 48127）、鳳来北西部（小林 60812）、新城（小林 60807）、下山（長谷川朋美 295）、藤岡（塚本威彦 69）、豊田東部（佐藤久美子 321）、豊田北西部（畑佐武司 3085）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 3013）。作手（小林, 2000）と豊川宝飯（旧音羽町, 小林, 2004）にもあるという。
【国内の分布】
本州（関東地方南西部～東海地方）。
【世界の分布】
日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の、主として沢沿いの林内や林縁に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河の山地では比較的多い植物で、自然林や二次林だけでなく、造林地や林道わきなどにも生育している。しかし、西三河や尾張の低山地では少なく、丘陵地には見られない。

【保全上の留意点】

県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではないが、特に尾張では生育地が限られており、保護を要する植物である。

【特記事項】

茎はキランソウよりは立つが、ニシキゴロモほどは立たない。東三河には花が大きい典型的な形態のものが多いが、西三河や尾張のものはしばしば花が小さく、その点でややキランソウに近い。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.136. 愛知県, 名古屋
小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.157. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅰp.190、平草本Ⅲp.74。

マネキグサ　*Lamium ambiguum* (Makino)Ohwi

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。生育地はそれほど多くないが、ある場所ではたいていかなりの個体数が生育しており、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

多年生草本。細い地下茎がある。地上茎は直立し、断面は四角形、中部でしばしば分枝し、高さ 40～70cm になる。葉は対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 3～7cm、幅 2～6.5cm、先端は鈍頭、基部は下部の葉では浅い心形であるが上部の葉では広いくさび形、辺縁には大きい鋸歯があり、質はやや薄く、まばらに毛がある。花期は 8～9 月、花は葉腋に 1～3 個ずつつき、花冠は唇形で暗紅紫色、長さ 18～20mm、下唇は 3 裂して開出し、長さは 7～8mm である。果実は 4 個の分果からなり、各分果は倒卵状くさび形で長さ約 2.5～3mm、先端に腺点がある。

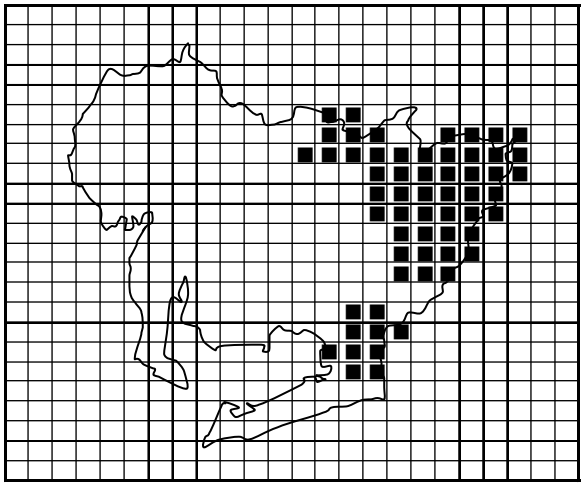
【分布の概要】

【県内の分布】
富山（小林 46615）、豊根（小林 38681）、東栄（芹沢 80842）、設楽西部（芹沢 63018）、設楽東部（芹沢 76215）、鳳来北東部（小林 53340）、豊橋北部（芹沢 76622）、旭（芹沢 56566）。

【国内の分布】
本州（神奈川県以西）、四国、九州。

【世界の分布】
日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地はそれほど多くないが、その場所では通常群生する。一部の生育地では周辺でシカの食害が顕在化しており、今後衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限れば現状ではそれほど神経質にならなくてもよいが、どこにでもある植物というわけではないので、生育地の保全には配慮する必要がある。シカによる食害が拡大すれば、愛知県でも準絶滅危惧種に移行する可能性がある。

【特記事項】

和名は、花冠が手招きしているような形だからと言われている。ヤマキセワタとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅰp.190、平草本Ⅲp.74、環境庁 p.523。

ミゾコウジュ　*Salvia plebeia* R.Br.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状況ではない。

【形　態】

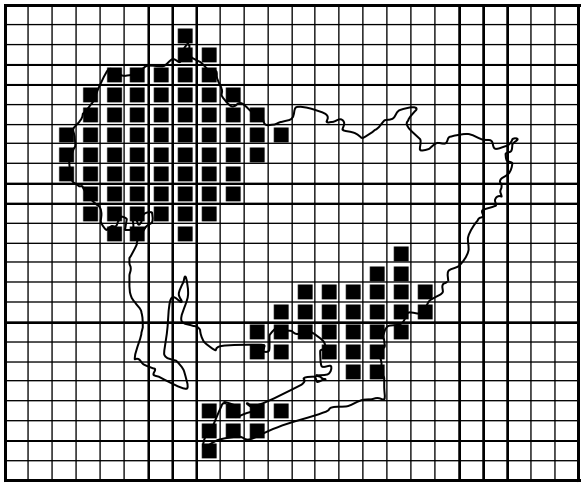
越年生草本。冬にはロゼット状の根出葉がある。茎は直立し、断面は四角形、上部で分枝し、高さ 30～70cm、下向きの細毛がある。根出葉は長楕円形で長い柄があり、花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、辺縁には細かい鈍鋸歯がある。花期は 5～6 月、花穂は茎や枝の先端につき、はじめ短いが、後に 8～10cm に伸びる。がくは長さ 2.5～3mm、花後に口を閉じ、果時には長さ約 4mm となる。花冠は淡紫色で、長さ約 5mm である。分果は広楕円形、長さ約 0.8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 58502）、豊川宝飯（小林 37120）、蒲郡（井上美保子 240）、豊橋北部（芹沢 72929）、渥美（小林 51572）、瀬戸尾張旭（村松正雄 23120）、日進長久手（半田多美子 1077）、犬山（芹沢 69566）、江南丹羽（上山秀郎 182）、小牧（日比野修 4853）、岩倉西春（芹沢 72934）、名古屋北部（鈴木秀樹 2423）、名古屋南東部（渡辺幸子 3085）、名古屋南西部（芹沢 80574）、一宮木曽川（塚本威彦 2611）、尾西（渡辺幸子 264）、祖父江（鈴木秀樹 3933）、稲沢平和（水野峰子 176）、海部東部（鈴木秀樹 2298）、海部西部（芹沢 74585）。海部南部（三岡裕介 s.n.）にもあるが、土砂と共に移入された可能性がある。鳳来北東部（長篠，小林 18789, 1978-5-25）、鳳来南部（黄柳野，加藤等次 s.n., 1957-5-26）で採集された標本もある。三河山地にはなく、また西三河と知多半島では現在のところ確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジア、マレーシア、インド、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの、多少攪乱された場所に生育する。平野部の休耕田やあき地などに生育することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地		○	○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

低湿地性の植物であるが、その中では攪乱地に多く生育している。大きい群落は作らないが、あちこちに点在しており、他の低湿地性植物に比べれば絶滅が危惧される程度は低い。しかしそれでも、都市近郊の一部の区画では、見かける機会が減少している。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、「本種すらなくなったら、低湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【関連文献】

保草本Ⅰp.167、平草本Ⅲp.80、SOS 旧版 p.78。

オオヒキヨモギ　*Siphonostegia laeta* S.Moore

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地が多く、個体数もそれなりにあり、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

半寄生の 1 年生草本。茎は斜上し、よく分枝し、高さ 30～70cm、葉とともに開出した腺毛が密生する。葉は茎の下部では対生、上部ではややずれて互生し、長さ 0.5～2.5cm でくさび形の翼がある柄があり、葉身は卵形、長さ 1.5～4cm、幅 1.2～3cm、羽状に深裂し、裂片は比較的大きくて幅が広い。花期は 8～9 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、がくは細い筒形で開出した腺毛が密生し、長さ 2～2.2cm、先端は 5 裂し、裂片は狭披針形で長さ 5～7mm である。花冠は黄白色、長さ 2.5～3cm、唇形、上唇は先が狭まらず切形で、2 裂しない。果実は蒴果で、長さ約 13mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 60090）、豊根（小林 60076）、東栄（小林 39487）、設楽東部（芹沢 63107）、鳳来北東部（堀田喜久 2826）、作手（小林 53266）、新城（芹沢 60148）、豊橋北部（芹沢 66850）、田原赤羽根（小林 73089）、旭（日比野修 1705）、足助（芹沢 70262）、下山（芹沢 63751）、小原（日比野修 2429）、藤岡（日比野修 3690）、豊田東部（畑佐武司 2312）、豊田北西部（畑佐武司 578）、岡崎南部（芹沢 70187）、瀬戸尾張旭（芹沢 81247）、犬山（小林 53732）、春日井（村瀬正成 15369）。主として低山地に生育しており、深山にも丘陵地にも少ない。

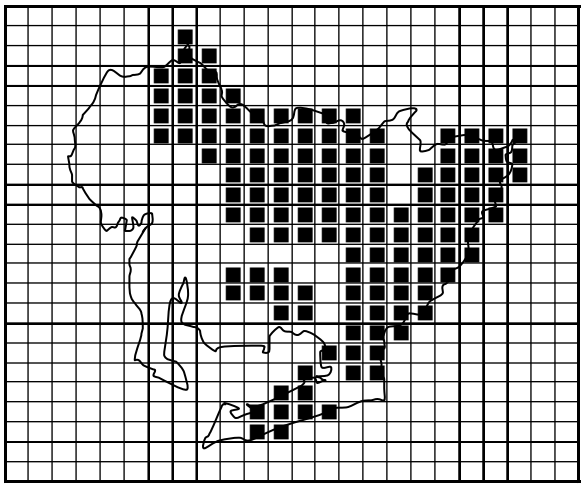
【国内の分布】

本州（関東地方～中国地方）および四国（瀬戸内側）に生育する。

【世界の分布】

日本および中国大陸中南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林縁に多い。しばしば林道わきの崖状地などに生育している。「低地のやや乾いた草地に生える」と書かれている文献もあるが、ヒキヨモギ（580 頁）と異なり、通常そのような場所に生育することはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩	○			
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

群生することはないが、あちこちに点在している。近年特に減少しているということもないが、よく茂った森林の中では生育できないため、森林化の進行が懸念材料である。本種のような、どうと言うことのない場所に生育しているがそれでいて雑草的でない植物は、将来的にはアキノハハコグサのように、希少な植物になってしまう可能性もある。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような林縁部も、生物多様性を保全する上ではそれなりに重要である。森林や湿地のような自然度の高い場所だけでなく、軽度に攪乱された環境も保全する必要があることは、よく認識する必要がある。

【特記事項】

ヒキヨモギからは、茎が直立せず、葉の切れ込みが浅く、花が鮮黄色でないことで区別できる。

【関連文献】

保草本Ⅰp.136、平草本Ⅲp.114、SOS 旧版 p.81、環境庁 p.529。

＜種子植物　被子植物　双子葉　合弁花類　ゴマノハグサ科＞　　愛知県：国リスト　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
＜SYMPETALAE　SCROPHULARIACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：VU）

イヌノフグリ　*Veronica didyma* Tenore var. *lilacina* (H.Hara)Yamazaki

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的には帰化植物に圧迫されて著しく減少しているが、愛知県ではよく探せばまだあちこちに見られる。

【形　態】

越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10～25cm になる。葉は茎の下部では対生、上部では互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4～11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯があり、両面に毛が散生する。花期は 3～4 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3～4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5～3mm、幅 4～5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 51267）、豊根（小林 63646）、東栄（小林 63317）、稲武（小林 56536）、鳳来北東部（芹沢 51292）、鳳来南部（小林 56161）、作手（小林 56002）、豊川宝飯（小林 65666）、蒲郡（小林 56024）、豊橋北部（小林 63212）、豊橋南部（小林 68419）、安城（堀田喜久 6711）、高浜碧南（渡辺幸子 4992）、幡豆（壁谷重美子 128）、瀬戸尾張旭（村松正雄 23010）、常滑（鳥居ちゑ子 1903）、知多南部（芹沢 82840）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2262）、名古屋南東部（奥村富枝 38）、名古屋南西部（芹沢 77250）。新城（小林, 2000）、田原赤羽根、渥美（小林, 2002）にもあるという。

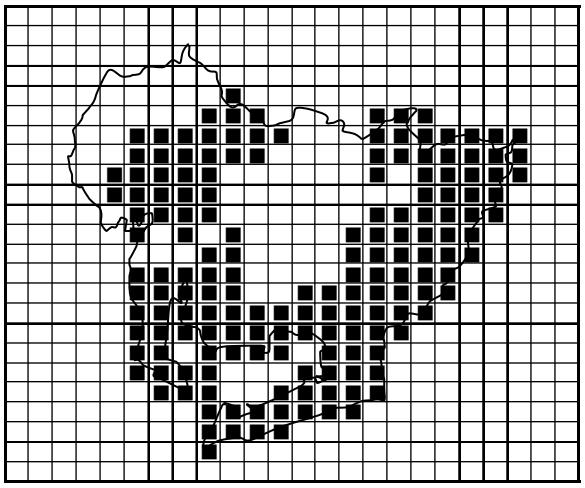
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアの温帯～暖帯に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

道端や土手、石垣などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では沿海部の数カ所にかなり多量に生育している。このような例は、調査が進めは全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとは言っても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。帰化系統が混在している可能性もある。

【保全上の留意点】

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、本種が生育し続けることができるようなおちついた集落環境の保全は是非とも必要なことである。貝塚に生育していることも多いので、史跡整備などの際には注意を要する。公園化など過度の攪乱を行えば、大型の外来種に席巻されることは確実である。

【特記事項】

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.143. 愛知県, 名古屋
小林元男, 2002. 渥美半島の植物 p.142. 東三林業振興会, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅰp.143、平草本Ⅲp.111、SOS 旧版 p.81、環境庁 p.530。

カワヂシャ　*Veronica undulata* Wall.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も多く、絶滅が危惧される状態ではない。全国的にもそれほど危機的とは思えないが、近畿地方などでは帰化植物のオオカワヂシャ *V. anagallis-aquatica* L.が増加し、それに圧迫されて減少傾向にあると言われている。

【形　態】

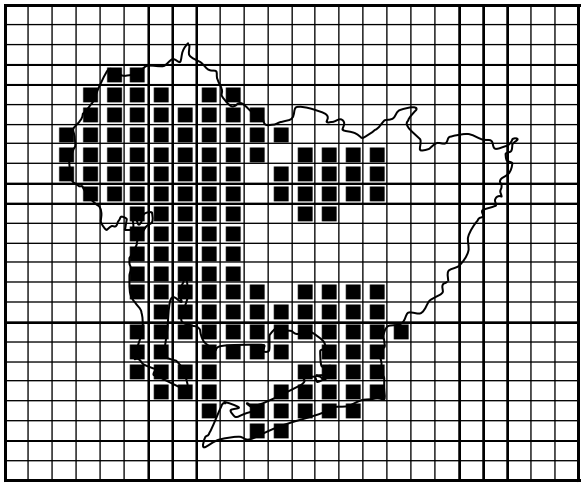
越年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 10～50cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 2.5～8cm、幅 0.5～2.5cm、先はややとがり、基部はやや茎を抱き、辺縁には鋸歯がある。花期は 5～6 月、葉腋から長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。花冠はほとんど白色で皿状に広く開き、直径 3～4mm、4 裂する。蒴果は球形で、先がわずかにへこみ、長さ幅ともに 2.5～3mm、先端に長さ 1mm ほどの花柱が残存し、果柄は曲がらずに斜上する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（芹沢 51222）、蒲郡（鈴木美恵子 114）、豊橋北部（芹沢 72928）、豊橋南部（井上美保子 852）、田原赤羽根（芹沢 55023）、足助（鈴木万里亜 522）、刈谷知立（芹沢 69280）、安城（堀田喜久 10324）、高浜碧南（芹沢 69488）、西尾（中根幸司 1199）、幡豆（芹沢 81506）、瀬戸尾張旭（村松正雄 20583）、日進長久手（半田多美子 1014）、大府東浦（芹沢 69295）、東海知多（芹沢 72875）、半田武豊（芹沢 76721）、知多南部（芹沢 82843）、春日井（芹沢 80530）、岩倉西春（芹沢 78554）、名古屋北部（芹沢 77881）、名古屋南東部（渡辺幸子 5057）、名古屋南西部（芹沢 79166）、一宮木曽川（芹沢 71479）、尾西（渡辺幸子 267）、海部東部（芹沢 77339）、海部西部（芹沢 61203）。平野部に多く、ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし山間部ではほとんど見られない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、東南アジア、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田や河川敷などの低湿地に生育する。特に水路の岸に多い。湿田状態が多少なりとも残されている場所では、春の水田雑草になっている。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

低湿地性の植物であるが、現在のところはやや普通種である。湿田の減少に伴い、減少傾向にあることは確かである。

【保全上の留意点】

個体レベルでの保全に限れば、現状では特に神経質になる必要はない。ただし、オオカワヂシャが増加した場合には状況が変わる可能性がある。

【特記事項】

オオカワヂシャは青色のオオイヌノフグリに似た花をつける植物で、愛知県でも最近庄内川などで記録されている。

【関連文献】

保草本Ⅰp.143、平草本Ⅲp.112。

＜種子植物　被子植物　双子葉　合弁花類　タヌキモ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜SYMPETALAE　LENTIBULARIACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

イヌタヌキモ　*Utricularia australis* R.Br.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的には減少傾向の著しい水草であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

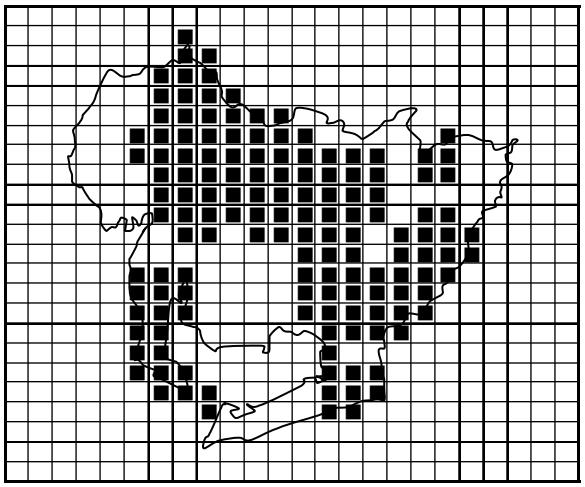
水中に浮遊する食虫性の多年生草本。茎は長さ 1m に達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ 1.5～4.5cm、基部で 2 本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫嚢をつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は 7～9 月、花茎は長さ 10～30cm で、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつけ、花柄は長さ 0.5～3cm で、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径 1.2～1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏～秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ 4～10mm、暗褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（小林 57897）、鳳来北東部（芹沢 82168）、新城（芹沢 78174）、豊川宝飯（小林 38811）、豊橋南部（芹沢 53563）、足助（塚本威彦 2737）、下山（芹沢 83071）、藤岡（芹沢 78042）、豊田東部（畑佐武司 4353）、三好（芹沢 53096）、額田（小林 65013）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 3106）、日進長久手（半田多美子 3762）、豊明東郷（芹沢 57784）、半田武豊（渡邉麻子 996）、常滑（中井三従美 5）、知多南部（中井三従美 27）、犬山（芹沢 78130）、春日井（鈴木 淳 230）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2328）、名古屋南東部（中島ひろみ 917）。豊根（宇連, 加藤等次 1659, 1968-10-15）、豊橋北部（葦毛, 鳥居喜一 21636, 1949-9-1, HNSM）、田原赤羽根（野田村, 鳥居喜一 21634, 1949-10-2, HNSM）、渥美（福江町小中山, 鳥居喜一 21635, 1949-8-14, HNSM）、海部東部（美和村蜂須賀, 木全 3, 1932-7-29）で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

ユーラシア、アフリカ、オーストラリアに広く分布する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域	○	○		

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や水田に生育する。湧水湿地下部の水路に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では尾張部の丘陵地のため池に比較的多く見られ、小さい池では、時に池一面に生育していることもある。しかし、この地域は開発圧も高く、また水質の汚濁により消滅する危険性も高い。近い将来県内で絶滅するとは考えにくいが、減少傾向にあることは明らかである。谷戸田に生育しているものは、量的にはどの場所もそれほど多くなく、また耕作放棄により消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

現状では、個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われる。しかし、本種が生育できるようなため池は次第に減少しており、生物多様性全般の保全という意味でも、生育地の保全は重要なことである。

【特記事項】

環境庁のレッドデータブックでは、タヌキモ *U. vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura に含めて扱われている。タヌキモはイヌタヌキモに比べ花茎が中空、殖芽は大きくほぼ球形で暗緑色であることで区別される（角野, 1994）が、殖芽のない材料では識別が困難であるという。愛知県産の標本は、角野氏に見てもらったところ、すべてイヌタヌキモとのことであった。

【引用文献】

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.148. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

保草本Ⅰp.121、平草本Ⅲp.138、環境庁 p.531。

＜種子植物　被子植物　双子葉　合弁花類　キク科＞　　愛知県：国リスト　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
＜SYMPETALAE　COMPOSITAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：VU）

ウラギク　*Aster tripolium* L.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。塩湿地性の植物であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、またやや攪乱された場所にも生育しており、絶滅が危惧されるほどではない。

【形　態】

越年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 40～80cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形、長さ 6.5～15cm、幅 0.6～1.5cm、先端は鋭頭、基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。花期は 8～11 月、茎の上部に、多数の頭花を散房状につける。頭花は直径 2.5～3cm、総苞は筒状で長さ約 7mm、総苞片は 3 列にならび、外片は披針形で長さ 2.5～3mm、鈍頭、辺縁に短い毛があり、内片は円頭で紫色をおびる。舌状花の花冠は淡青紫色で、舌部は長さ 7～10mm である。そう果は狭長楕円形、長さ 2.5～3mm、扁平で有毛、冠毛は花時には長さ 5mm 程度であるが、果時には 14～16mm に伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 65483）、蒲郡（小林 58662）、豊橋南部（芹沢 81132）、田原赤羽根（芹沢 78356）、渥美（芹沢 78359）、刈谷知立（芹沢 71360）、高浜碧南（芹沢 71363）、西尾（中根幸司 1900）、幡豆（中根幸司 1927）、大府東浦（中村裕治 1286）、東海知多（清水政美 s.n.）、半田武豊（芹沢 77069）、名古屋南西部（芹沢 83580）、海部南部（畑佐武司 1528）。名古屋南東部（加福町, 高木順夫 5628, 1997-11-1）にもあったが絶滅した。

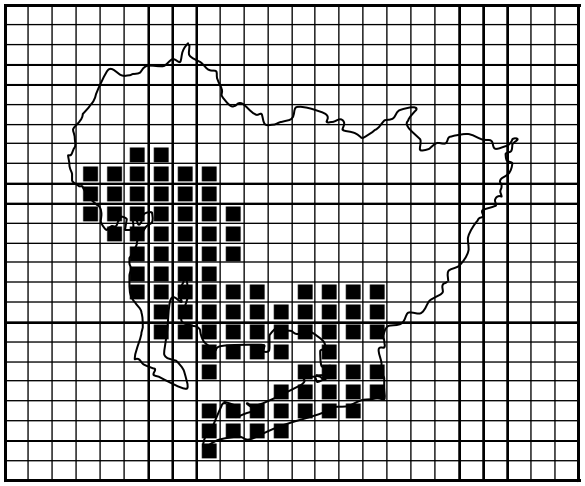
【国内の分布】

北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

内湾の塩湿地や河口部の河川敷などに生育するほか、埋立地の水路などに生育していることもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				○
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ある場所では群生していることが多く、花時には美しい。現在の所はまだかなり多いが、海岸部の開発により、減少傾向にあることは確かである。名古屋南東部では、生育地が廃棄物最終処分場となり絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知県では当面絶滅が危惧される状態ではないが、全国的には減少傾向が著しい。愛知県においても、本種の生育地である内湾部や河口部は開発圧力が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。本種についても、ある程度自然度の高い場所に安定した状態で生育している場合は、保全対策を講じるべきである。塩湿地性植物は全体的に目立たないものが多いが、その中で本種はハマボウと共に花が美しく、象徴としての意味も大きい。「本種すらなくなったら塩湿地性植物は全滅」という意味でも、注目してよい植物である。

【特記事項】

ハマシオンとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅰp.80、平草本Ⅲp.194、環境庁 p.543、SOS 新版 p.154,156。

ワタムキアザミ　*Cirsium tashiroi* Kitam.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。分布域の狭い準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 30～80cm になる。葉は茎の基部に集まり、根出葉は花時にも残存し、長さ 15～30cm、切れ込まないものから羽状に全裂するものまであり、先端は鋭頭、切れ込まないものでは葉身は卵形～楕円形、基部は広いくさび形～浅い心形で長い柄があるが、切れ込むものでは葉身は長楕円形、柄は短い。花期は 9～10 月、頭花は少数で、長い柄の先に下向きにつき、総苞は長さ 15～17mm、幅 1cm 程度、総苞片は 6 列で先端は開出し、刺針となる。花冠は紅紫色で、長さ 18～20mm である。

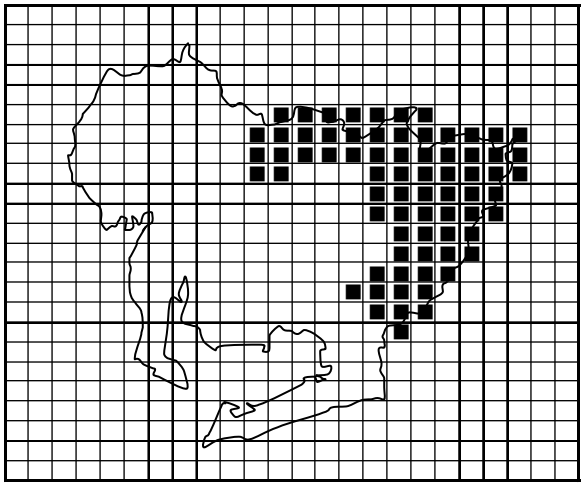
【分布の概要】

【県内の分布】
富山（小林 48063）、豊根（小林 39833）、津具（芹沢 70572）、稲武（芹沢 74995）、鳳来北東部（小林 62256）、新城（小林 40107）、旭（芹沢 63853）、小原（伊藤泰輔 122）、藤岡（日比野修 920）。標本は作成しなかったが設楽西部でも見ており、また東栄にもあるという（小林, 2006）。県内の分布は三河山地に限られており、丘陵地では見られない。ただし、知多南部（芹沢 82714）に似たものがある。

【国内の分布】
本州（静岡県西部～滋賀県東部）に分布する。

【世界の分布】
日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。沢沿いに多いが、尾根近くに見られることもある。自然林内にも生育しているが、どちらかといえば軽度の攪乱を受けた場所に多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河山地には点在している。現在のところ、特に減少傾向も認められない。

【保全上の留意点】

現在はまだ多いが、分布域が比較的狭い植物であるから、それなりに配慮を要する。特にある程度自然度の高い場所に生育している場合は、注意して生育地を保全する必要がある。

【特記事項】

葉が切れ込まないものはヒダアザミというが、はっきり区別できるものではない。知多南部のものについては今後更に検討を要するが、保全上の重要性は極めて高い。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.205. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅰp.33、平草本Ⅲp.215、環境庁 p.547。

＜種子植物　被子植物　単子葉　オモダカ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　ALISMATACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

アギナシ　*Sagittaria aginashi* (Makino)Makino

【除外理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では比較的生育地が多く、休耕田などにも生育しており、絶滅が危惧されるほどの状態ではない。

【形　態】

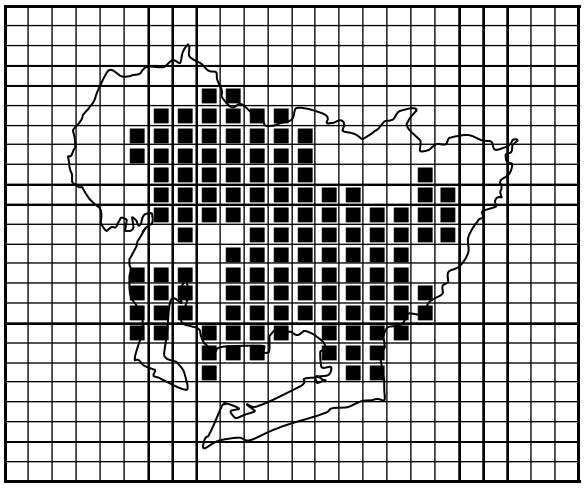
多年生草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢じり形、頂裂片は広披針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端、側裂片は頂裂片より少し短く、先端は次第に細まり鈍端となり、辺縁は全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は高さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつくり、花序の上部に雄花、下部に雌花をつける。花弁は 3 個、白色、卵円形で長さ 10～13mm、果実はそう果で倒卵形、広い翼がある。葉腋に多くの小球茎をつけ、栄養的に繁殖する。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（小林 66933）、作手（芹沢 56027）、豊川宝飯（小林 38841）、豊橋北部（芳山朋子 936）、下山（芹沢 83070）、藤岡（芹沢 52780）、豊田東部（山崎玲子 1523）、豊田北西部（近藤洋一朗 5710）、三好（臼井里華 707）、額田（小林 53447）、岡崎北部（中西普佐子 1588）、岡崎南部（芹沢 78065）、幸田（金子律子 1263）、幡豆（壁谷重美子 890）、瀬戸尾張旭（芹沢 76128）、日進長久手（半田多美子 3494）、半田武豊（岡本久美子 667）、常滑（相羽福松 4070）、春日井（日比野修 3015）、名古屋北部（芹沢 52674）、名古屋南東部（石川・渡辺 5124）。新城にもあるという（小林, 2000）。豊橋南部（杉山町七股池, 恒川敏雄 s.n., 1962-8-11, TMNH）、刈谷知立（刈谷市牛池, 芹沢 38124, 1983-9-17）で採集された標本もある。平野部にはほとんどなく（ただし豊橋市瓜郷で採集された標本=鳥居喜一 9246, 1942-9-6, HNSM がある）、渥美半島でも現在のところ確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩				
湿 地	○	○		
水 域				

【生育地の環境／生態的特性】

林の中の湿地、ため池の周辺などに生育することが多いが、谷戸などの休耕田に群生することもある。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田の雑草とはならない。

【現在の生育状況／減少の要因】

オモダカに比べればずっと少ないが、それでもよく探せば、あちこちに生育している。休耕田に群生しているものは生育状態が不安定である。都市近郊では水田の宅地化などにより減少している。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限れば、現時点ではそれほど神経質になる必要はない。しかし、特に休耕田以外の場所に生育しているものについては、それなりに保全上の配慮を要する。本種が生育し続けることができるようなおちついた谷戸田景観の保全は、重要な課題である。

【特記事項】

オモダカに比べ、地下に走出枝がなく、かわりに小球茎をつけ、葉の側裂片は頂裂片より短く、その先端が鈍端であることで区別できる。葉の幅はかなり広いものも狭いものもある。和名は「顎無し」で、初期に出る葉が側裂片を持たないことによるという。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.157. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲp.400、平草本Ⅰp.1。

＜種子植物　被子植物　単子葉　トチカガミ科＞　　愛知県：国リスト　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
＜MONOCOTYLEDONEAE　HYDROCHARITACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：VU）

ミズオオバコ　*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。国リストに掲載されたので評価対象に加えたが、愛知県では生育地が多く、過栄養化した水路などにも生育しており、絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

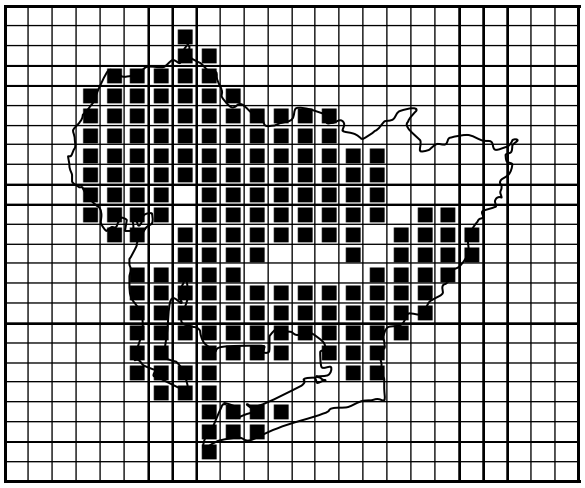
沈水性の 1 年生草本。茎は短く葉を束生する。葉の大きさは変異が著しく、小さいものは葉柄の長さ 1.5～2cm、葉身の長さ 3～5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は披針形～円心形、辺縁は全縁のことが多いが顕著な小歯牙が出ることもある。花期は 8～10 月、長さ 2～70cm の花茎の先に 1 個の花をつける。花弁は 3 個でほぼ円形、白色～淡紅色、子房は下位で表面に翼状の隆起条があり、隆起条はしばしば著しく波状に縮れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（加藤等次 2161）、新城（小林 39057）、豊川宝飯（芹沢 76244）、蒲郡（鈴木美恵子 255）、御津（小林 38951）、豊橋北部（加藤等次 215294）、渥美（芹沢 57938）、足助（芹沢 78797）、下山（芹沢 83607）、小原（伊藤泰輔 263）、藤岡（芹沢 78047）、豊田東部（畑佐武司 2260）、豊田北西部（山崎玲子 1274）、豊田南西部（落合鈴枝 943）、幸田（壁谷祥和 164）、刈谷知立（芹沢 47303）、安城（堀田喜久 6518）、西尾（中根幸司 1971）、幡豆（中根幸司 1286）、瀬戸尾張旭（芹沢 74814）、日進長久手（半田多美子 1698）、半田武豊（相羽福松 4017）、常滑（中井三従美 4）、知多南部（芹沢 64392）、犬山（芹沢 78120）、江南丹羽（福岡義洋 4346）、小牧（福岡義洋 4256）、春日井（山田果与乃 871）、岩倉西春（鈴木幸子 179）、名古屋北部（福岡義洋 4690）、名古屋南西部（高木順夫 248）、一宮木曽川（福岡義洋 5357）、尾西（渡辺幸子 1872）、稲沢平和（水野峰子 259）、海部東部（芹沢 70155）、海部南部（永田晴美 699）。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジアの温帯～熱帯、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

山間部の水のきれいなため池や谷戸田に生育する一方で、生活排水が流入する都市近郊の過栄養化した水路にも見られる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	○

【現在の生育状況／減少の要因】

非汚染水域に生育しているものに限定すれば集団数も個体数もそれほど多くなく、またため池の改修や養魚池化、谷戸田の放棄などにより減少傾向にあり、準絶滅危惧相当である。しかしその一方で、平野部の水路を埋め尽くすほどに生育していることもあるため、リスト外と判定される。ただし、平野部の水路のどこにでもあるというわけではない。

【保全上の留意点】

非汚染水域に生育しているものについては、保全上何らかの配慮が望ましい。このようなものと過栄養水域に生育しているものは、遺伝的に多少なりとも分化している可能性があり、今後詳細な検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.395、平草本Ⅰp.3。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.

＜種子植物　被子植物　単子葉　ヒルムシロ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　POTAMOGETONACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

リュウノヒゲモ　*Potamogeton pectinatus* L.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。河口部などの水域に生育する水草で、全国的に減少傾向が著しいが、愛知県ではかなり多量に生育している場所があり、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

沈水性の多年生草本。地下茎は水中の泥中をはい、1 節おきに水中茎を出す。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、全て沈水葉、葉身は狭線形、長さ 5～10cm、幅 0.5～1mm、全縁、基部は托葉と合着して長さ 1～2cm の葉鞘となり、葉鞘の上端には耳状突起がある。花期は 6～9 月、葉腋から長さ 4～10cm の花茎を出し、その先に長さ 1.5～4cm の穂状花序をつける。花序は節間が伸び、まばらに花をつける。ただし愛知県では、開花結実は極めて稀である。夏の終わり頃から、地下茎の先端に長さ 4～8mm の塊茎を作り、これにより無性繁殖と越冬を行う。

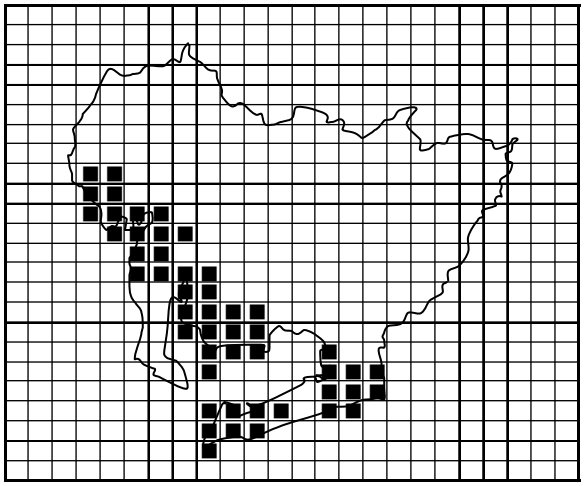
【分布の概要】

【県内の分布】
豊橋南部（芹沢 81133）、渥美（芹沢 78188）、高浜碧南（芹沢 81124）、幡豆（中根幸司 1894）、東海知多（加藤雅憲 1390）、海部南部（根本　淳 s.n.）。海部南部では木曽岬干拓地東側の水路に多量に生育しているが、ここではまだ標本を採取していない。

【国内の分布】
北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】
世界の温帯～熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

主として海岸近くの池沼や水路に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	○

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地点はそれほど多くないが、ある場所ではしばしば多量に生育している。かなり水質汚濁が進んだ場所に生育していることもある。それでも、おそらく過去に比較すれば著しく減少しているものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような河口部の水域は、開発圧力が高く、人為的な水の汚染も起きやすい。河口部河川後背地の自然環境の保全について、長期的な戦略が必要である。

【特記事項】

センニンモと共に、葉の基部が葉鞘になることが特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.417、平草本Ⅰp.12、環境庁 p.563、SOS 新版 p.159,161。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

＜種子植物　被子植物　単子葉　イバラモ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　NAJADACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

イトトリゲモ　*Najas japonica* Nakai

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、長さ 10～30cm になるが、折れやすい。葉は各節に 5 個づつ輪生し、細く線形、長さ 1.2～2cm、幅約 0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は 6～9 月、雌雄同株で、各節に 1 個の雄花と 2 個の雌花がつく。果実は各節に 2 個並んでつき、それぞれ 1 個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約 2mm、幅約 0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 62127）、新城（小林 61915）、豊川宝飯（小林 77253）、豊橋北部（小林 70255）、渥美（芹沢 78186）、足助（塚本威彦 2079）、下山（芹沢 83084）、小原（塚本威彦 1229）、豊田東部（畑佐武司 2261）、幡豆（芹沢 81122）、瀬戸尾張旭（村松正雄 23273）、日進長久手（福岡義洋 1589）、小牧（日比野修 4957）、春日井（村松正雄 21464）、名古屋北部（村松正雄 18557）、名古屋南東部（渡辺幸子 3572）。東栄、設楽（設楽は区画不明、小林, 2006）、豊橋南部（小林, 2001）にもあるという。ていねいに探せば、他のいくつかの区画でも確認されるものと思われる。

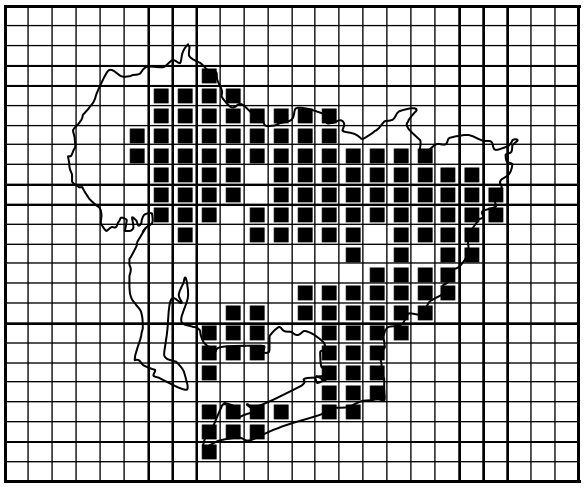
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池や谷戸田の小水路、時には水田の中などに生育している。海岸部の養魚場跡地などに生育していることもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域	○	○		

【現在の生育状況／減少の要因】

目立たない植物であるが、注意して探せば愛知県ではあちこちに点在している。小さいため池を埋め尽くすほど生育していることもある。過去の分布情報が不十分なため、増減の傾向はよくわからないが、ごく近年に限れば強力な除草剤が使用されなくなったためか、多少増加傾向にあるように思われる。

【保全上の留意点】

全国的に見れば減少傾向にある植物で、愛知県の状況は例外的とも考えられる。そのため愛知県においても、それなりに保全上の配慮を要する。本種が生育し続けることができるような落ち着いた谷戸田景観の保全は、重要な課題である。

【特記事項】

日本産トリゲモ類の中では最も繊細で、そのためイトトリゲモと呼ばれる。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.135. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.213. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.409、平草本Ⅰp.18、環境庁 p.366、SOS 新版 p.126。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

＜種子植物　被子植物　単子葉　イネ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　POACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

ヒメコヌカグサ　*Agrostis valvata* Steud.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種で、絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

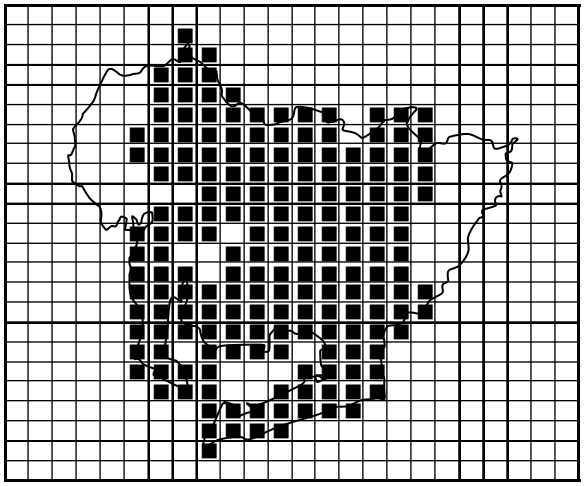
繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。茎は高さ 40～70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7～15cm、幅 3～5mm、葉舌は長さ 1～3mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 10～15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5～3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（芹沢 55546）、設楽西部（芹沢 59086）、鳳来北西部（小林 52498）、作手（芹沢 55051）、新城（芹沢 65044）、豊川宝飯（瀧崎吉伸 13102）、豊橋北部（龍川良克・郁子 42）、田原赤羽根（芹沢 58612）、渥美（芹沢 58214）、足助（芹沢 71503）、下山（芹沢 61994）、小原（日比野修 2139）、藤岡（日比野修 315）、豊田東部（畑佐武司 1982）、豊田北西部（土場トシ子 533）、三好（芹沢 61322）、額田（芹沢 55442）、岡崎北部（芹沢 65283）、岡崎南部（芹沢 69101）、幸田（芹沢 71516）、西尾（堀田喜久 3852）、幡豆（壁谷重美子 324）、瀬戸尾張旭（芹沢 81241）、日進長久手（芹沢 76735）、豊明東郷（芹沢 79176）、東海知多（芹沢 72895）、半田武豊（渡邉麻子 390）、常滑（梅田零奈 368）、知多南部（芹沢 61386）、犬山（芹沢 73742）、春日井（芹沢 58358）、名古屋北部（芹沢 77325）。蒲郡（小林,2004）と豊橋南部（小林,2001）にもあるという。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地	○	○		
水 域				

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地周辺に生育している。沢沿いの林道わきや谷戸田周辺の湿った里草地に生育していることもある。

現在の生育状況／減少の要因】

全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種である。しかし、名古屋近郊では丘陵地に対する開発圧が高く、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

全国で準危惧という評価は、愛知県とその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため愛知県においても、それなりに生育環境の保全に配慮する必要がある。全国的な状況を知らない人からは、サクラバハンノキと同様「こんなものまで保全していたらきりがない」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、愛知県の丘陵地の自然はかくも貴重だと言うことである。

【特記事項】

ヤマヌカボに似ているが、小穂が花序の枝全体につき、小花が苞穎と同長か、それより少し長いことで区別できる。小穂が緑色のものと紫色を帯びるものは他の形態的特徴でも多少異なっており、今後詳細に比較検討する必要がある。標本は、緑色のものを優先して引用した。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.140. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.184. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.352、平草本Ⅰp.125、SOS 旧版 p.99。
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.308-309. 平凡社, 東京.

＜種子植物　被子植物　単子葉　ミクリ科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　SPARGANIACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

ナガエミクリ　*Sparganium japonicum* Rothert

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。水生植物であるが、愛知県では生育地も個体数も比較的多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

多年生草本。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35～100cm になる。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があって断面は三角形になり、幅 7～14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6～9 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序をややまばらに 5～10 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 2～6 個つける。雌性花序のうち下部 1～3 個は、長さ 1～3.5cm の柄があり、少なくとも最下のものは柄が主軸と合着しない。雌性花序は球形で、果期には直径 1.5～2cm になり、果実は紡錘形、本体は長さ約 4mm で、短い小柄がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 58432）、鳳来北東部（石川静雄 208）、豊橋北部（小林 70256）、下山（芹沢 83068）、豊田南西部（畑佐武司 4568*）、額田（福岡義洋 s.n.）、岡崎北部（芹沢 71255*）、岡崎南部（芹沢 71382）、幸田（小林 61921）、安城（堀田喜久 953*）、西尾（中根幸司 1513*）、幡豆（芹沢 82009）、瀬戸尾張旭（鈴木 淳 396*）、知多南部（中井三従美 32*）、犬山（塚本威彦 1288*）、江南丹羽（竹原芳子 1267*）、春日井（芹沢 78012）、名古屋北部（芹沢 76859）、尾西（渡辺幸子 4904*）。ただし* は葉だけの標本である。一宮木曽川（東島町，遠藤浩三 139, 1993-8-1）にもあったが、この場所では絶滅した。

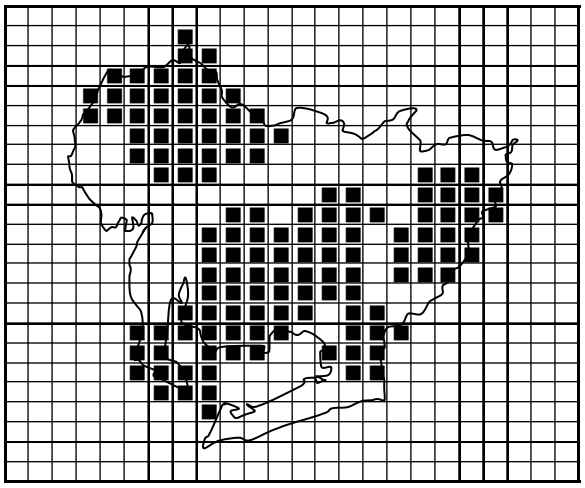
【国内の分布】

北海道南西部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

小河川や水路などの浅い水中に生育する。流水域に多いが、止水域にもある。流れがやや強い場所にあるものは、しばしば水中葉だけが出て、セキショウモのような形になる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県のミクリ属の中では最も個体数が多い種類で、多少汚れた水域にも生育している。しかしそれでも、河川の改修、ため池の改修や埋立、あるいは水質の極度の汚濁により、次第に減少している。

【保全上の留意点】

本種の主要な生育地であったはずの平野部の小河川は、ほとんどがコンクリートで三面を固められ、生活排水が流入し、一昔前とはまるで異なる状態になっている。その意味では、平野部の水草は、ごく一部の種類を除きすべて危機的であると言ってもよい。「さらさら流れる春の小川」を取り戻すことは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

和名は、下部の雌性花序に柄があるからである。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編図版 11 に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.420、平草本Ⅰp.143、SOS 旧版 p.103。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京.

チャボイ　*Eleacharis parvula* (Roem. et Schult.) Link

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。沿岸部の低湿地に生育する植物であるが、富栄養化した場所にも生育しており、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

小型の 1 年生草本。茎は束生し、高さ 3～10cm になり、秋に細い匐枝を出してその先に披針形～鈎形で長さ 2～3mm の塊茎をつける。葉は線形、茎と同長かそれよりやや短い。花・果期は 6～10 月、小穂は茎の先端に 1 個頂生し、楕円形～長卵形、淡緑色で長さ 2～3mm である。

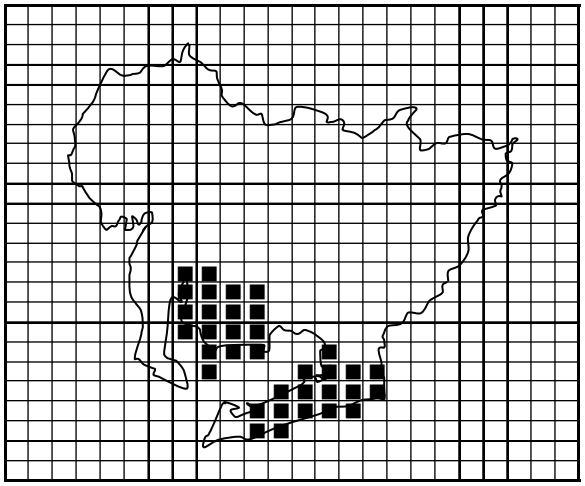
【分布の概要】

【県内の分布】
豊橋南部（芹沢 81134）、田原赤羽根（八木将勝 s.n.）、高浜碧南（芹沢 81130）、西尾（中根幸司 1272）、幡豆（芹沢 81063）。

【国内の分布】
本州、四国、九州。

【世界の分布】
ユーラシア大陸、北アフリカ、南北アメリカに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般には塩湿地性の植物と言われている。愛知県では海岸近くの水路の土がたまった部分や干上がった養魚場跡地に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	○
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された植物であるが、一度気づいてみるとあちこちに生育しており、時には生活排水の流入する側溝にも見られる。個体数も、ある場所ではたいていマット状に生育しており、それほど少ないものではない。過去からの増減ははっきりしないが、ごく最近に限れば養魚場の放棄などにより増加している可能性がある。

【保全上の留意点】

全国的には絶滅危惧Ⅱ類と評価されている植物であり、堤防内側の水路などに生育しているものについてはそれなりに保全上の配慮を要する。側溝などに生育しているものについては保全のしようがなく、良好な標本資料の確保につとめる方がよい。

【特記事項】

マツバイ *E. acicularis* (L.) Roem. et Schult. var. *longiseta* Svenson に似ているが、茎はやや太く、横にはう走出枝はなく、地下に小さい塊茎をつける。

【関連文献】

平草本Ⅰp.172、環境庁 p.603。

＜種子植物　被子植物　単子葉　ラン科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　ORCHIDACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

マメヅタラン　*Bulbophyllum drymoglossum* Maxim.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中では生育地も個体数も比較的多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、偽球茎をつくらず、まばらに葉をつける。葉は無柄、葉身は卵円形、長さ 7～10mm、幅 5～8mm、先端は円頭、葉質は肉質で脈は見えない。花期は 5～6 月、葉の基部から長さ 7～10mm の糸状の花茎を出し、その先端に淡黄色（まれに暗紅色）の花を 1 個つける。苞は卵形で鈍頭、膜質、がく片は 3 枚で広披針形、長さ 7～8mm、側花弁は長楕円形、長さ 3～4mm、唇弁は広披針形、がく片より短く、やや鈍頭、外側に湾曲する。

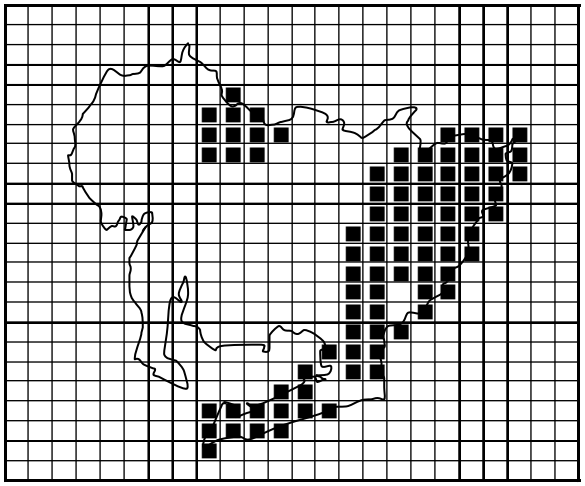
【分布の概要】

【県内の分布】
富山（小林 46953）、豊根（小林 41304）、東栄（小林 64499）、設楽西部（小林 41683）、鳳来北東部（加藤等次 331）、鳳来南部（福岡義洋 4732）、豊橋北部（小林 70062）、田原赤羽根（小林 47767）、渥美（小林 47761）、瀬戸尾張旭（日比野修 400）。作手にもあるという（小林, 2000）。西三河では、豊田北西部（猿投山, 岡本英一 295, 1958-8-18）で採集された標本はあるが、最近確認されていない。

【国内の分布】
本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】
日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ムギランよりは少ないが、それでもあちこちで見ることができる。愛知県では岩場に生育することが多いが、ツガなどに着生することも少なくない。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したものと思われる。ラン科植物としては花が目立たないので、園芸目的の採取は、現在のところそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

本種が絶滅危惧種であるかどうかにかかわらず、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

和名は、全形がシダ植物のマメヅタに似ているからである。マメランとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲp.59、平草本Ⅰp.231、環境庁 p.609。

＜種子植物　被子植物　単子葉　ラン科＞　　愛知県：国リスト　（国：準絶滅危惧）
＜MONOCOTYLEDONEAE　ORCHIDACEAE＞　　AICHI：－　（JAPAN：NT）

ムギラン　*Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中では生育地も個体数も比較的多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形　態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形で長さ 6～8mm の偽球茎をまばらにつらね、その上に 1 個の葉をつける。葉は肉質で厚く、長楕円形、長さ 1～3cm、幅 6～8mm、先端は円頭、中脈は明瞭である。花期は 6～7 月、偽球茎の基部から長さ 6mm ほどの花茎を出し、その先端に帯黄白色の花を 1～3 個つける。苞は長楕円形で膜質、がく片は 3 枚で卵状楕円形、長さ 3～3.5mm、側花弁はがく片とほぼ同長で、辺縁に毛がある。唇弁は卵形で厚く、ずい柱の基部から出る突起の先につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 46957）、豊根（加藤等次 3704）、東栄（小林 39483）、稲武（小林 45943）、設楽西部（小林 41684）、鳳来南部（福岡義洋 4733）、豊橋北部（芹沢・芳山 254）、田原赤羽根（小林 40833）、旭（塚本威彦 565）、足助（日比野修 3294）、小原（日比野修 2340）、藤岡（日比野修 3586）、岡崎北部（小林 55381）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 147）。作手と新城にもあるという（小林, 2000）。豊川宝飯（宮路山，加藤等次 s.n., 1949-10-23）、豊田北西部（猿投山，岡本英一 296, 1958-5-19）、春日井（坂下町内津，井波一雄 s.n., 1934-11-18, CBM264612）で採集された標本もある。

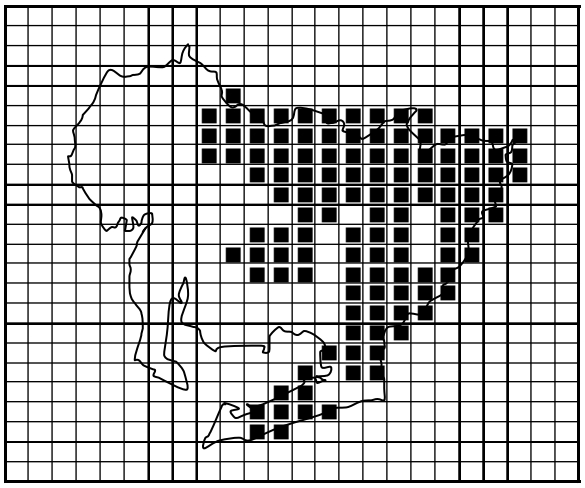
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

多いと言うほどではないが、あちこちで見ることができる。愛知県ではカヤやスギなどの針葉樹に着生することが多く、岩場にも見られる。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したものと思われるが、近年に限ればさほど減少してはいない。遷移等によって消滅するおそれはなく、また園芸目的の採取も、現在のところはそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

マメヅタランの場合と同様、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。また、神社の境内にあるスギなどの大木は、樹齢数百年になっていることも多く、ムギランやセッコクなど多くの着生ランの生育適地になっている。文化財としても重要であるが、その木 1 本だけでなく、周囲の樹木も含めて保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、偽球茎が麦粒に似ているからである。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲp.59、平草本Ⅰp.231、環境庁 p.610。